

## 60 プーシェ 『古代から現代までの西洋服飾史』

**Boucher, François. Histoire du costume en occident de l'antiquité à nos jours.** Paris, Flammarion, 1965. 447p. with illus. 28.7×22.5 cm <383.13-B>

優れた服飾史はまだあらわれていない、といわれているなかで、本書は質量共に20世紀後半において一時期を画した名著の評判が高い。というのも、プーシェは服装の歴史を人間そのものの歴史として叙述し、極めて広範な地層上に捉えようとしたからで、その態度や方法は、わけても本書の序文に明らかである。プーシェ（1885—1966）は1912年エコール・ド・シャルト（古文書学院）を卒業のちカルナヴァレ博物館に入り、同42年から48年まで館長を務めた。退職後は同館名誉学芸員、フランス服飾芸術協会会長及び服飾美術館の設立に努力した。また二度の大戦に従軍し、武功十字軍章などの勲章を受けている。著書に *Le costume français vu par les artistes*, 1949 <383.135-B>, *Paris, miroir de la mode, Le dessin Français au XVIII<sup>e</sup> siècle*, 1949 などがある。なお、本書はカラー写真印刷の技術を本格的に導入した最も初期の服装書であり、2年後には英語版とスペイン語版が、また1973年には日本語版も刊行された。タイトルは以下のとおりである。なお、1983年には増補版も刊行されている。

*A history of costume in the west.* London, Thames and Hudson <383.13-B>, *Historia del traje.* Barcelona, Montaner y Simon, 『西洋服飾史, 先史から現代まで』文化出版局 <383.13-B>。(石山)